

令和5年度 一般財団法人 新潟県建設技術センター研究助成事業

柏崎市中通地区をモデルとした「関係人口の創出・拡大」事業 活動報告書



(令和5年5月14日開催：中通・新緑の田園ウォーク)

令和6年3月

代表申請者 新潟工科大学 樋口 秀

1. 事業の概要

1-1 目的

柏崎市内の農村地域（中通地区）を対象に、これからの地域創生の鍵を握るとされる「関係人口の創出・拡大」を目的とした調査研究とフィールドワークの3か年事業である。

※関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない。地域や地域の人々と継続的に多様に関わる者。

1-2 背景

中通地区は、柏崎駅から約10kmに位置し、国道8号や主要地方道が通り、生活基盤の比較的整った農村地域である。一方、人口減少や少子化が進み、地区内で唯一の小学校も児童数が激減し、柏崎市の学区再編方針では令和8年度に近隣の小学校へ統合されることが提示されており、将来が心配される状況にある。

また、全国的な動きとして、近年、若者世代や子育て世代に田園回帰の志向が見られるほか移住促進が思うような成果につながっていないことから、移住より心理的負担の小さい「関係人口」が地域創生の鍵を握ると考えられるようになってきている。

そのような動きを踏まえ、関係人口に着目し、その潜在的条件のそろった中通地区を対象に、全国のモデルとなるような「関係人口の創出・拡大」に取り組むものである。



1-3 事業推進組織

新潟工科大学の建築・都市環境学系教授、樋口秀ほか同大学の教員2名、学生1名、中通地区居住者1名の計5名で構成する組織（チーム）が主体となり事業を推進する。

1-4 実施スケジュール（3か年の年次計画）

■ 1年目(令和4年度)

- ・ 地域との関わり方及び関係人口に関する学習
- ・ 地域理解・地域資源の調査（「中通ゆかりの若者が中通を語る座談会」の開催）

■ 2年目(令和5年度)

- ・ 関係人口に有効な地域資源の活用調査（「田園ウォーク」の試行、「水田景観勉強会」の開催、県内外のウォークイベントに関する調査）
- ・ 活動に関する地域との共有（「中通の水田景観と田園ウォーク発表会」の開催）

■ 3年目(令和6年度)

- ・ 関係人口への有効性が見込まれる事業の実施（「田園ウォーク」の本格実施）
- ・ 同事業の有効性、継続性に関する検証、活動の振り返り

2. 地域との関わり方及び関係人口に関する学習（令和4年度）

2-1 中通地区との関係づくり（地区代表者、行政関係者へのあいさつ、事業説明）

■ 地区代表者：中通地区行政振興会・会長、中通コミュニティ振興協議会・会長

- ・ R4.1.8：中通地区を対象とした事業の実施を説明し了解を得た。
- ・ R4.4.21：助成事業の採択を報告し、協力をお願いした。

■ 行政関係者：柏崎市（元気発信課、市民活動支援課）

- ・ R4.4.21：柏崎市担当課を訪問し、事業の説明をし、活動への理解と協力をお願いした。

2-2 地域への入り方・関わり方の学習

■ にいがたイナカレッジのコーディネーターを講師とした勉強会

○ 第1回「共感から生まれる関係人口」

- ・ 副題：地域に受け入れてもらうために必要なこと
- ・ 講師：金子知也さん
- ・ 日時：6月17日（金）16:30～17:30
- ・ 場所：新潟工科大学 ゼミ室
- ・ 参加者：11名（チームメンバー、新潟工科大生）



○第2回「心と体の旅をする」

- ・副題：若者が地域に関わることで得られるもの
- ・講師：井上有紀さん
- ・日時：9月30日（金）15:00～17:30
- ・場所：新潟工科大学 会議室
- ・参加者：10名（チームメンバー、新潟工科大、新潟産業大生）



※いながたイナカレッジ：公益社団法人、中越防災安全推進機構（長岡市）の内部組織。2012年から中越地震により過疎化の流れが加速化した農村地域で、都市部の若者を受け入れる農村インターンシップなどに取り組んでいる。

3. 地域理解・地域資源の調査（令和4年度～）

3-1 地区行事への参加

地区行事の夏祭り「あかりナイト」やコミュニティ祭りに準備段階から参加した。

3-2 地区内の外部人材、農業関係者との面談

地区内の外部人材（地域おこし協力隊）や農業関係者を訪問・面談し、仕事の内容や展望、地域のことなどを聞いた。

3-3 集落単位の土地利用現況調査、土地利用現況ヒアリング

地区内の土地利用の実態を把握するため、3つの集落を対象に、土地利用現況調査を実施した。また、12月に全集落（9集落）の町内会長に、土地利用に関するヒアリングを実施した。

3-4 地域資源に関する資料「映像で見る中通」の作成

地区の地域資源を「映像で見る中通」として編集した。スライドは全部で48枚、5区分（「地形、景観」「地区行事」「人」「公的施設、生活施設等」「活動」）

3-5 「中通ゆかりの若者が中通を語る座談会」の開催

令和5年1月、中通ゆかりの若者が、中通の思い出や好きなところ、おすすめの場所を発表し、発表者間で語り合う座談会を開催した。

■中通ゆかりの若者（発表者）

- ・中通出身で現在県外居住3名（千葉県、広島県、福島県）
- ・県外出身で中通に居住経験あり2名（田舎暮らしインターン、地域おこし協力隊）

■発表者の「中通の好きなところ、おすすめの場所」抜粋

○新田瑞希さん（中通出身者）

- ・山の麓にある実家から見える景色。緑があってすごく落ち着く。
- ・春の雪が溶け始めたころの匂い、土の匂いや田んぼを耕したあとの匂いが好き。

○室賀幸太郎さん（中通出身者）

- ・田んぼに映る夕日。田植え直前の5月頃の田んぼに水をはった時が一番きれい



○渡辺七海さん（中通出身者）

- ・人が優しいところ。帰省すると、地域の人が「お帰り」と声をかけてくれる。それが、すごく嬉しい。
- ・ランニングが好きで、よく花田の中を走った。花田は田んぼが多く平坦でランニングに適している。そこで聞こえるカエルの鳴き声も好き。



○吉田涼香さん（田舎暮らしインターン）

- ・矢田の集落開発センター。「みんなの家」みたいで、みんなが自由に使える。みんなが責任をもって管理している。そこから見える景色もすてき。
- ・住む場所として、とても心落ち着ける場所だと思う。

○野々垣翔太さん（地域おこし協力隊）

- ・田んぼの夕日。夕焼けに鳥肌がたった。慣れない土地で仕事にぐったりした時も、疲れやストレスを忘れさせてくれる景色だった。
- ・地元（愛知県）に戻ってみると、雪景色や冬の静けさが恋しい。

■当日の様子



前半の部 個別発表



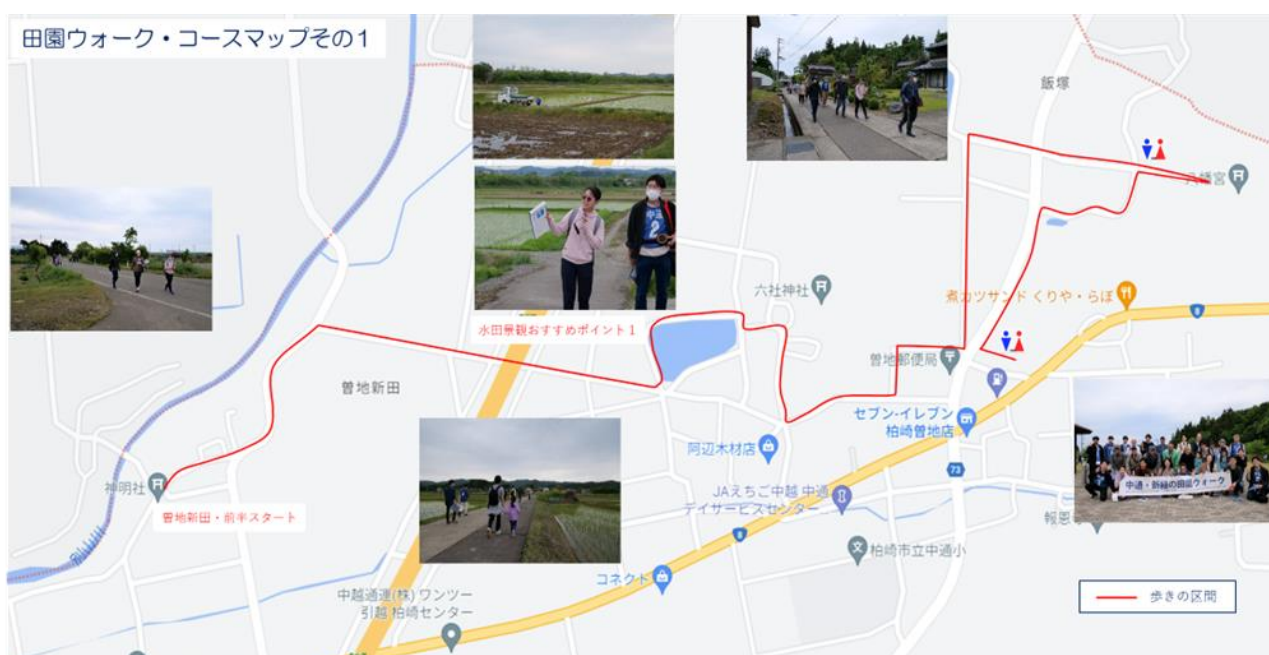
後半の部 語り合い

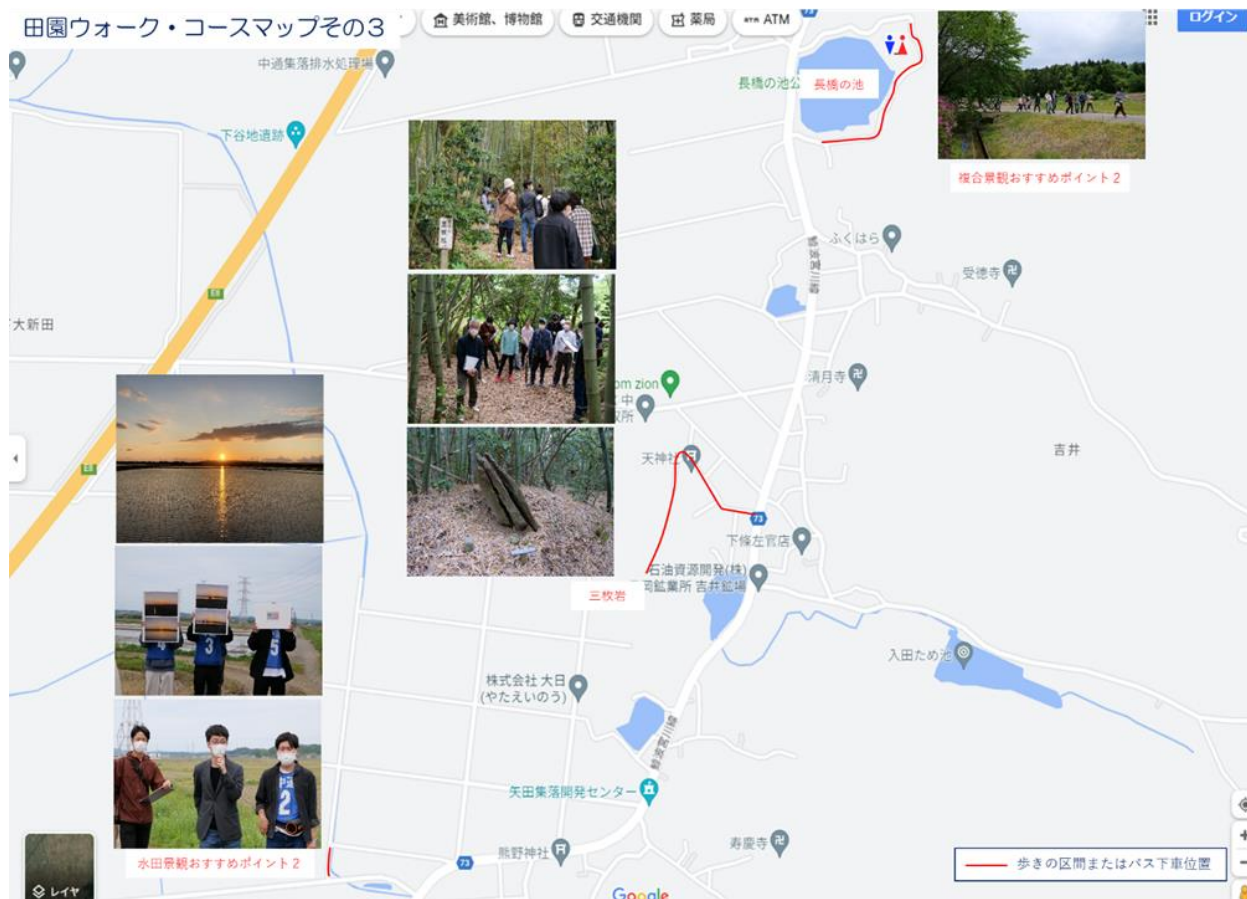
4. 関係人口に有効な地域資源の活用調査（令和5年度）

4-1 中通・新緑の田園ウォークの試行実施

■田園ウォークの概要

- ・開催日：令和5年5月14日（土）
- ・主催：中通地区「関係人口の創出・拡大」研究チーム
- ・コース：中通座談会で紹介されたおすすめの間所を中心に全9集落を巡る（バス併用）、歩行距離4.3km、所要時間3時間、各スポットで説明
- ・参加者：29人、中通座談会出席者、関係者、知人（一般募集はなし）





■田園ウォークの感想

○昼食後の感想発表（花田・Sさん）

- ・矢田の夕日を見る場所は、送電線もなく、米山もよく見えて、中通らしい風景だと思う。

○参加者アンケート（飯塚・Yさん）

- ・久しぶりに中通を歩いて、小学生の頃に通学したり、遊んだりしたことを思い出した。

○柏崎日報・柏崎抄の抜粋

- ・地区内にこれほど見どころがあるとは。薫風を感じながら歩くのもいいものだ。

4-2 水田景観勉強会の開催

同年9月、中通座談会や田園ウォークで焦点となった「水田景観」を、より深く学ぶため、ランドスケープが専門の片桐由希子氏を講師に招き勉強会を開催した。

■水田景観勉強会の概要

- ・開催日：令和5年9月9日（土）
- ・会場：新潟工科大学 会議室
- ・講師：金沢工業大学准教授 片桐由希子氏
- ・参加者：18人

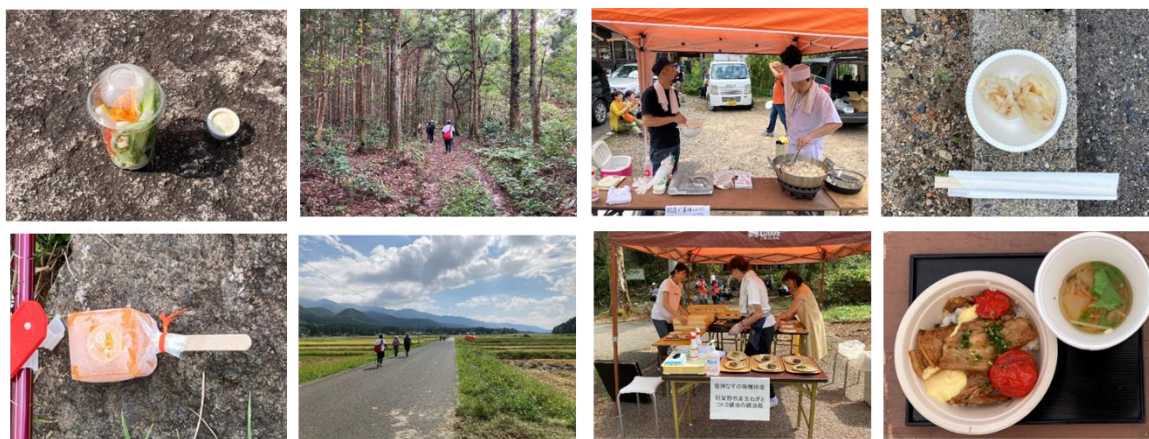


4-3 県内外のウォークイベントに関する調査

ウォークイベントのコース設定や運営方法などを学ぶため、県内外のウォークイベントに参加した。（計8回）

■県内事例1：阿賀野ウォーク&イート

- ・開催日：令和5年9月18日（月・祝）
- ・主催：実行委員会、開催場所：阿賀野市村杉
- ・コース：歩行距離7km、所要時間3時間、参加費：3,500円
- ・参加者：160人（定員150人）、ガイドなし
- ・特徴：歩くことと食べることの組み合わせ（コースの途中で様々な食べ物が提供される）、ウォークイベントとして県内最大級の規模、人気も高い。



■県内事例2：八色の森健康ウォーキング

- ・開催日：令和5年9月23日（土）
- ・主催：実行委員会、開催場所：南魚沼市浦佐
- ・コース：歩行距離10km、所要時間2.5時間、参加費：500円
- ・参加者：約50人、ガイドなし
- ・特徴：制限時間あり（2.5時間で10km）、ひたすら歩く、でも爽快



■ 県外事例：全国フットパスの集い・Dコース

- ・開催日：令和5年10月29日（日）
- ・主催：実行委員会、開催場所：福島県西郷村
- ・コース：歩行距離5km、所要時間3.5時間、参加費：500円
- ・参加者：20人（10人ずつ2班）、定員は40人
- ・特徴：少人数の班編成、ガイド有、集団で歩く、ガイドの説明による立ち止まりが多い。
ペースがゆっくりな分、参加者同士の会話は増える。



5. 活動に関する地域との共有（令和5年度）

5-1 中通の水田景観と田園ウォーク発表会の開催

令和5年11月、田園ウォークの試行実施や県内外のウォークイベントに参加して学んだことを基に、地域の方々に向けて発表会を開催した。

■ 中通の水田景観と田園ウォーク発表会の概要

- ・日時：令和5年11月18日（土）14：00～15：30
- ・場所：中通コミュニティセンター 2F和室
- ・発表内容と発表者

「中通地区における調査・研究・活動の報告」新潟工科大4年 小林右京

「中通の水田景観の魅力」～R4.11まで矢田・地域・おこし協力隊 野々垣翔太さん

「水田景観を見どころとした田園ウォークの展望」主催関係者（中通在住）吉田芳郎

- ・参加者：23人



6. 令和6年度の活動予定

6-1 「田園ウォーク」の本格実施

関係人口への有効性が見込まれる「田園ウォーク」を本格実施する。また、同ウォークを継続していく体制を検討する。

■田園ウォーク本格実施の概要（案）

- ・日時：令和6年5月5日（日・祝日）9：00～12：00
- ・コース：中通地区の北側と南側の2コース
- ・主催：中通地区「関係人口の創出・拡大」研究チームと中通コミュニティ振興協議会
- ・定員：各コース20人、計40人 一般募集

■開催のねらい

- ・地区内外の人に、中通地区の農村風景や田園風景を知ってもらう。
- ・同じコースを同じ時間、様々な地域・様々な年代の人が参加し、一緒に歩く楽しさを感じてもらおう。
- ・連休に帰省する地元出身者や農村に関心のある都会人など、地区内外の人が集まり交流する場を提供する。

6-2 「田園ウォーク」の展望

■ウォークの魅力について

○魅力1（全国フットパスの集い・基調講演より）

- ・歩くことは、前へ進むこと、心と体を元気にしてくれる。

○魅力2（中通・田園ウォーク 野々垣 翔太さん）

- ・歩くことは、頭を活性化する。五感が研ぎ澄まされる。

○魅力3（著書「フットパスによる未来づくり」より）

- ・いつも車で通る道でも、歩いてみるとそれまで隠れていた魅力が見える。
- ・様々な人とつながる。歩いていれば声をかけやすい。たくまらずとも様々な交流ができる。

■田園ウォークを「中通のタネ」に

- ・中通は、水田景観とウォークの相性がよさそう
- ・2つを組み合わせ、地区内外の様々な年代、様々な暮らし方をする人が交じり合う場づくりの「タネ」にしたい。

以上